

平成20年度 普及に移す農業技術（第2回）

[分類] 普及技術

[成果名] ナシ心腐れ症防除にベンレート水和剤が有効である

[要約] 胴枯病菌によるナシ心腐れ症防除にベンレート水和剤の3,000倍液を散布する。

[担当] 南信農業試験場 病害虫土壌肥料部

[部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

ナシ心腐れ症に対して効果の高い薬剤を選定するとともに、薬害発生の有無を検討する。平成20年に農薬登録されたため今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) ナシ心腐れ症防除にベンレート水和剤の3,000倍液を散布する。

農薬登録内容

ベンレート水和剤

[一般名及び成分含量] ベノミル 50.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] B類相当

[対象作物に対する適用登録状況（平成21年2月6日現在JPPネット確認）]

作物名	適用病害虫	希釈 倍数	使用 方法	使用 時期	本剤の 使用回数	ベノミルを含 む農薬の総使 用回数
なし	うどんこ病	2000～ 3000倍	散布	収穫7日 前まで	6回以内	6回以内（但 し、塗布は2回 以内）
	黒星病					
	心腐れ症(胴枯病菌)	3000倍				
	輪紋病	2000倍				
	胴枯病					
	枝枯病	20倍				

3 利用上の留意点

(1) 薬剤に関する注意事項

ア 本剤はトレボン乳剤またはダイアジノン乳剤と混用した場合、凝固物を生成するため混用を避ける。

(2) 防除に関する注意事項

ア 心腐れ症は主に胴枯病菌が原因の果実の内部腐敗である。薬剤散布だけでは十分な効果が得られないので、奇形果・上向き果の摘果、適期収穫などの耕種的対策を併用する。

イ 心腐れ症の発生生態と防除対策の詳細は、平成13年度第2回試験して得られた技術事項「日本なし「幸水」で問題となる心腐れ症状の発生生態と防除対策」を参照する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) 平成 18 年に多発生条件で試験を行った。ベンレート水和剤処理区の心腐れ症の発生はトップジン M 水和剤処理区とほぼ同等で、無処理と比較して効果が認められた。薬害は認められなかった(表 1)。

表 1 ナシ心腐れ症に対するベンレート水和剤の防除効果(平成18年, 南信試)

供試薬剤	希釈倍率	調査果数	発病果率	防除価	薬害
ベンレート水和剤	3,000	42.7	11.4 %	77.4	なし
トップジン M 水和剤	1,500	38.0	17.6	65.1	なし
無処理		27.7	50.4		

試験場所 : 南信農業試験場
 耕種概要 : 品種は幸水、26年生棚仕立て
 区制・面積 : 1区1/4樹(16m²)、3反復
 薬剤散布 : 5/3, 5/10, 5/22, 5/31, 6/10の計5回、動力噴霧器で400 /10a相当量散布した。
 調査方法 : 8/21~9/1に順次収穫し10日間室温保存の後、切断調査を行った。薬害は随時観察した。
 防除価は発病果率から算出した。
 防除価=(無処理の発病果率 - 試験区の発病果率)/無処理の発病果率 × 100
 その他 : 5/11と5/23の夕刻に胴枯病菌の分生子懸濁液(10⁵個/ml)を1~2L/樹散布した。
 黒星病防除の目的で無処理区を含む試験区全体に開花前後にEBI剤を散布した。

(2) 平成 20 年は中発生条件で試験を行った。ベンレート水和剤処理区の心腐れ症の発生はトップジン M 水和剤処理区とほぼ同等で、無処理と比較して効果が認められた。薬害は認められなかった(表 2)。

表 2 ナシ心腐れ症に対するベンレート水和剤の防除効果(平成20年, 南信試)

供試薬剤	希釈倍率	調査果数	発病果率	防除価	薬害
ベンレート水和剤	3,000	51.0	1.4 %	97.6	なし
トップジン M 水和剤	1,500	56.7	3.6	93.9	なし
無処理		75.7	14.5		

試験場所 : 南信農業試験場
 耕種概要 : 品種は幸水、28年生棚仕立て
 区制・面積 : 1区1/4樹(16m²)、3反復
 薬剤散布 : 5/8, 5/18, 5/28, 6/7, 6/17の計5回、動力噴霧器で400 /10a相当量散布した。
 調査方法 : 8/19~9/4に順次収穫し10日間室温保存の後、切断調査を行った。薬害は随時観察した。
 防除価の算出は表 1 と同じ。
 その他 : 5/12と5/29の夕刻に胴枯病菌の分生子懸濁液(10⁵個/ml)を1~2L/樹散布した。
 黒星病防除の目的で無処理区を含む試験区全体に開花前後にEBI剤を散布した。

6 その他特記事項

[公開] 制限なし

[課題名, 研究期間, 予算区分]

病害虫の発生生態と防除技術, 平成 18, 20 年(2006, 2008 年)、県単素材開発